比較家族史学会

会報 比較家族史 66

事務局 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-7 弘文堂気付

学会事務連絡先 大学生協学会支援センター内 比較家族史学会
〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22 TEL. 03-5307-1175 FAX. 03-5307-1196
E-Mail:hikakukazokushi@univcoop.or.jp 郵便振替 00130-4-25222

2016年 比較家族史学会 第59回 春季研究大会のご案内

【日 時】2016年6月18日（土）・19日（日）

【会 場】近畿大学東大阪キャンパス 近畿大学経済学部 B館 B-101教室
住所：577-8502 大阪府東大阪市小若江3-4-1

【参 加 費】1,000円

【懇親会費】4,000円（近畿大学生協食堂 11月ホール地下）

【昼 食】6月18日（土）は大学生協食堂・学内のコンビニが営業しています。
6月19日（日）は大学生協食堂・学内のコンビニは休業します。お昼をご持参いただくか、大学周辺の飲食店・コンビニなどをご利用ください。

【宿 泊】宿泊は特に斡旋しませんので、各自でのご手配をお願いいたします。大阪周辺のホテルは混雑しております。早目のご予約をお願いします。

【託児サービス】原則募集は締め切りました（必要があれば早めにご相談下さい）。

【出欠はがき】同封のはがきにて5月31日（火）までにお知らせください。なお返信はがきには必ず52円切手を貼って投函してください。

【問い合わせ先】近畿大学経済学部 岩間剛城研究室 iwama@kindai.ac.jp

【後 援】近畿大学

【大会運営委員】岩間剛城（近畿大学・委員長）・床谷文雄（大阪大学）・山田昌弘（中央大学）・森本一彦（高野山大学）・平井晶子（神戸大学）

＊会場へのアクセス

※新大阪駅および大阪（伊丹）空港から近鉄線へのアクセス

(1) 新大阪駅：JR京都線（東海道本線）で大阪駅に行き、大阪駅で大阪環状線に乗り換えて、鶴橋駅から近鉄線にご乗車ください。

(2) 大阪（伊丹）空港：リムジンバスで大阪難波また大阪上本町に行き、そこから近鉄線にご乗車ください。

※近鉄線利用での、近畿大学東大阪キャンパスへのアクセス

①近鉄大阪線「長瀬」駅（「普通」のみ停車）、徒歩約15分。

＊バス・タクシーはなく徒歩のみの移動。

②近鉄奈良線「八戸ノ里」駅（「普通」のみ停車）、徒歩約20分。

・バス停「八戸ノ里駅前」1番乗り場（土曜のみ運行）：「近畿大学東門前」行にて「近畿大学東門前」下車、バス約5分。

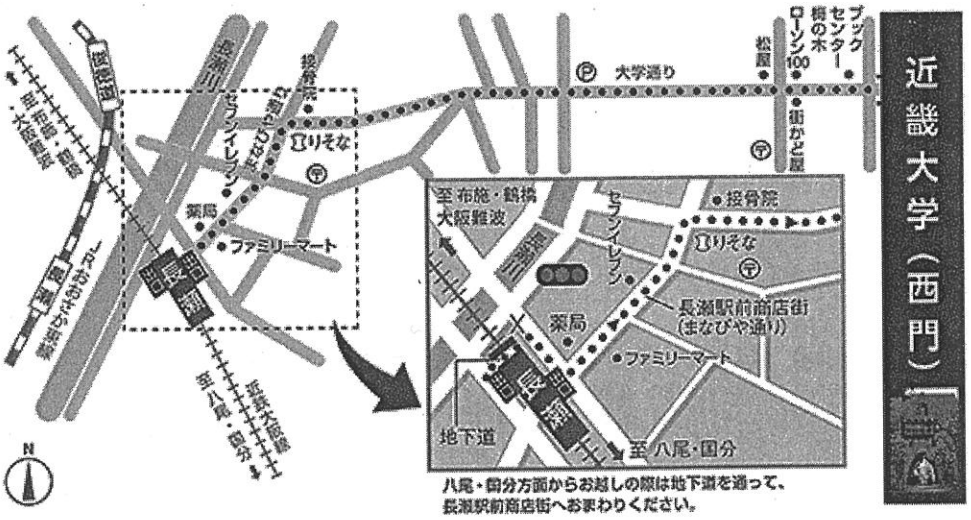
・バス停「八戸ノ里駅前」2番乗り場：「金物団地前・久宝寺口駅前」行（番号71・76・77）にて「東上小阪」下車、バス約7分。

・「八戸ノ里」駅前ロータリーより、タクシー約5分。

＊なお、東大阪キャンパスへのアクセスの詳細は、近畿大学の以下のHPをご覧ください。

http://www.kindai.ac.jp/about-kindai/campus-guide/access.html#ac-higashi-osaka

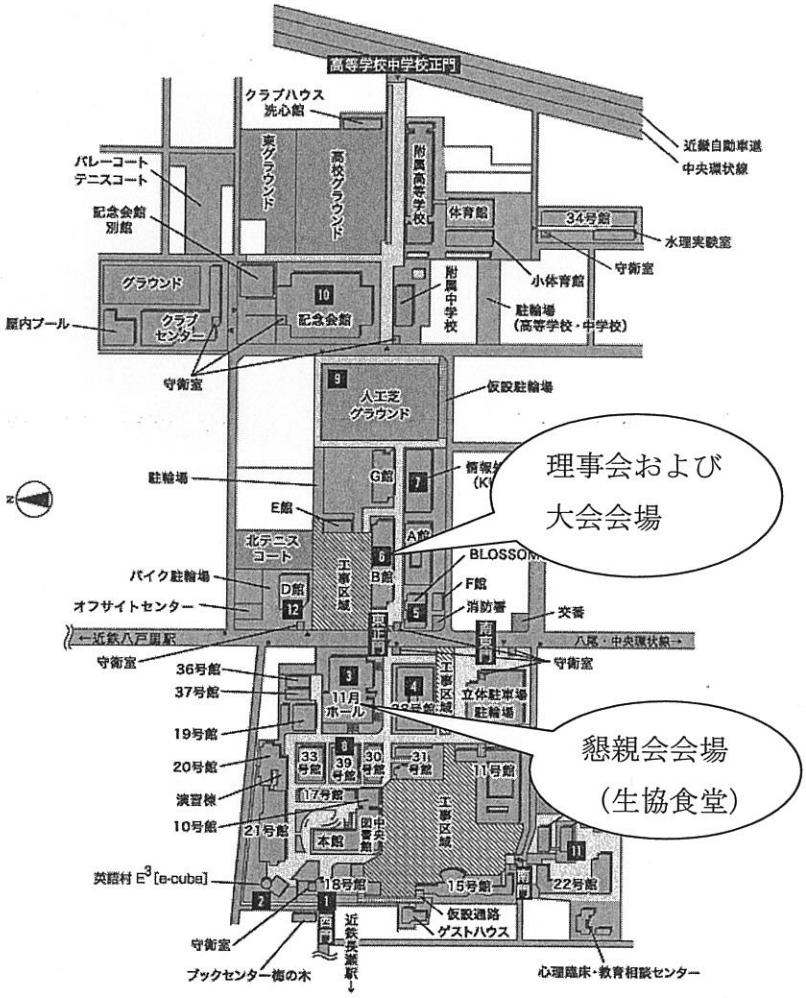
◎長瀬駅（大阪線）から東大阪キャンパスまでの地図



◎東大阪キャンパスマップは次頁に有り

◎東大阪キャンパスマップ

大会会場の⑥B館は、東正門から道路を渡って、正面左の建物になります。



【プログラム】

6月18日（土）

9：10～ 9：20　会長挨拶　森　謙二（茨城キリスト教大学）

9：20～10：40　自由報告　司会：山内　太（京都産業大学）

9：20　張　婷婷（東北大学大学院）

「近世越後『出稼ぎ』漁村の人口史的分析

――新潟市西蒲原郡旧角田浜村の事例分析を中心に」

10：00　岩本由輝（東北学院大学）

「東電福島第一原発のある町の中世――鎌倉末・南北朝期を中心に」

10：40～10：50　休　憩

10：50～11：50　総　会

11：50～12：50　お昼休み

12：50～15：10　シンポジウム「出会いと結婚　第1部　現代の日本」

司会：平井晶子（神戸大学）

12：50　趣旨説明　床谷文雄（大阪大学）

13：00　基調報告　　山田昌弘（中央大学）
「日本の結婚のゆくえ」
13：50　中村真理子（国立社会保障・人口問題研究所）
「戦後日本における結婚行動の変化――人口学の視点から」
14：20　賽漢卓娜（長崎大学）
「地方における国際結婚の展開」
14：50　質疑応答
15：20～15：40　　休　憩
15：40～18：20　　シンポジウム「出会いと結婚　第2部　世界の結婚」
司会：床谷文雄（大阪大学）
15：40　伊達平和（滋賀大学）
「出会いと結婚に関する計量社会学的検討――アジア8地域を対象として」
16：10　大島梨沙（新潟大学）
「フランスにおけるカップル形成と法制度選択」
16：40　休 憩
16：50　宇田川妙子（国立民族学博物館）
「現代イタリア社会における結婚の意味」
17：20　渡邉暁子（文教大学）
「フィリピンのムスリムにみる結婚の現代的展開――多様性と連続性」
17：50　質疑応答
18：30～20：30　懇親会

6月19日（日）
9：30～12：10　　シンポジウム「出会いと結婚　第3部　日本の結婚の歴史的展開」
司会：森本一彦（高野山大学）
9：30　川口　洋（帝塚山大学）
「19世紀の奥会津における遠方婚からみた地域変化」
10：00　中島満大（県立広島大学）
「近代移行期における西南日本型結婚パターンの変容」
10：30　休　憩
10：40　服部　誠（愛知県立旭丘高等学校）
「恋愛から見合へ――家制度下の出会いと結婚」
11：10　蓑輪明子（名城大学）
「臨時法制審議会における結婚の位置」
11：40　質疑応答
12：10～13：30　　お昼休み
13：30～15：50　　シンポジウム「出会いと結婚　第4部　全体討論」
司会：床谷文雄・平井晶子
15：50～16：00　閉会のあいさつ

【シンポジウムの趣旨】

本シンポジウムのテーマは「出会いと結婚」である。具体的には、結婚の意義と結婚する当事者の出会いのかたちの変化を時代的に、また地域的にも比較し、検証しようとするものである。とりわけ、だれと、だれが、どのように出会い、結婚に至ったのかを再考する。

日本で未婚化（晩婚化）が注目されてから20年が立つ。この間も、結婚そしてその解消である離婚をめぐる様々な問題が話題となってきた。人口動態統計によると、2014年の日本国内での婚姻は64万9千組、平均初婚年齢は2012年で夫30.8歳、妻29.2歳、2013年は夫30.9歳、妻29.3歳、と徐々に上昇し、20年前からいわれている晩婚化が止むことなく進行している。いまや男性のみならず、女性も30歳で独身も普通のことになり、40歳前での初産も多くなっている。配偶者との出会い方については、昭和初年から戦後すぐの時代は見合い結婚が圧倒的に多かったが、昭和40年頃から恋愛結婚が見合い結婚を上回るようになり、現在では、見合い結婚は極めて少数派となっている。恋愛につながる出会いの場も同じ学校や同じ会社といったように限定され、夫婦の平均年齢差も少なくなっている。婚活、街コン、といった出会いを求めるイベントが大きな話題となる一方で、出会いのないままに年を重ね、生涯未婚となる者の割合（生涯未婚率）も高まっている。

他方で、結婚した夫婦も3組に1組が離婚する時代となり、終生の永続的な結びつきという結婚のイメージが失われてきているが、夫婦の一方または双方が再婚という再婚カップルも増加している。そこでは、未成熟子を抱えた親が自分のこと以上に、子のためを思って新しい出会い・結婚を望むという状況も見られる。

また、グローバル化の進展により、国・文化・宗教を異にする者の間での結婚（国際結婚・トランスボーダー結婚・トランスナショナル結婚・異文化結婚）も増えている。その出会いそして結ばれるかたちも所によって異なっている。さらに最近では、法律的な結婚にこだわらない結びつき（同棲、事実婚）も拡がり、同性婚あるいはパートナーシップ、シビル・ユニオンといった新しいカップルの形態が世界的に拡大している。伝統的な結婚ではなく、そのような新しい結びつきを求めるのはなぜか。誰が何を求めているのであろうか。

本シンポジウムは、次のような三部構成の発表（11名）と全体討論でなっている。

第1部では「出会いと結婚：現代の日本」と題して、現在の結婚事情を社会学的・人口学的に総括する。まず、山田昌弘基調報告「日本の結婚のゆくえ」では、前近代社会との比較においての近代的結婚の意味、近代的結婚の特徴を解き明かし、近代社会の構造転換に伴う近代的結婚の危機と、それに対する欧米の対応と日本の対応を比較し、近代的結婚に固執する日本で、結婚・恋愛が現実からバーチャル化している事情を分析する。次いで、中村報告では、特に戦後日本の結婚行動の変化を人口学的に検証する。なぜ、日本で未婚化・晩婚化が進展したのかという問いに対して、その答えを社会経済的要因、配偶者選択の方法の変化から探る。他方、賽漢卓娜報告では、日本における国際結婚30年の変遷を辿り、特に日本の地方に嫁いだアジア女性たちが家族、地域社会、国家との交渉において抱える困難と社会的支援のありかたについて問いかける。

第2部では、「世界の結婚」事情について取り上げる。伊達報告では、配偶者との出会い方に関し、どこで、どのような形で出会ったか、親の影響の強弱など、アジア8地域における量的データを基礎として計量社会学的検討を加える。次いで、大島報告では家族法学の立場から、フランスにおけるカップル関係制度の多様性について紹介し、婚姻、PACS、内縁（自由結合）の3形態から人々はどれを選んでいるのか、その選択の基準は何か、それぞれの法的特質は何かについて明らかにし、フランスと比べて法的多様性に乏しい日本では、カップル形成が今後ますます阻害されて行くと指摘する。他方、イタリアにおける「結婚」の急激な多様化について宇田川報告

では、晩婚化・未婚化、別居・離婚の増加、同棲の急増など統計が示す現状から、結婚に関わる選択肢は増加しているが、「いずれ結婚」という考えはなお強く、生活・人生における結婚の位置づけが変化しているとする。そして、第2部の最後に、東南アジアにおける結婚の変容を渡邉報告が取り上げる。フィリピンにおけるムスリムの結婚について、ある親族の配偶者選択の展開をたどることで、出会いの変化、海外就労との結びつき、民族間・異教徒間結婚の増加と民族内結婚への回帰、慣習の継続など、多様性と連続性が絡み合う現状が論じられる。

第3部では、「日本の結婚の歴史的展開」から、結婚とカップル形成の意味を検討する。まず、川口報告は、19世紀の奥会津における遠方婚からみた地域変化を18世紀から19世紀にかけての人口・戸数、性比、出生性比、未婚者数等の人口動態及び関係史料から読み解く。次いで中島報告では、近代移行期における西南日本型結婚パターンの変容につき、結婚のはじまりに焦点をあてつつ、結婚形態と離婚との関係性などを歴史人口学的・歴史社会学的立場から論じ、何が変容し、何が持続したのかを示す。第1部の山田報告・中村報告では、近年の未婚化の要因として、見合い結婚から恋愛結婚への変化について論証されるが、これに対して、服部報告では、「恋愛から見合へ—家制度下の出会いと結婚」をテーマに、戦前の愛知県・三重県における恋愛慣行の広がりと家制度の確立による恋愛の衰退の状況の分析をする。第3部の最後として、蓑輪報告では、日本近代法制史の観点から、法律婚主義（届出婚主義）から儀式婚主義への変更なども検討されていた大正末期・昭和初期の臨時法制審議会による民法改正要綱などの分析を基に、婚姻を軸に、大正期の法制の変容を当時の法学者がどう展望したのかを検討する。

本シンポジウムは、結婚の「はじまり」に焦点を当てるものではあるが、結婚に至る過程では、離婚可能性など、結婚後のあり方が結婚のはじまりに大きく影響するため、各発表においても、全体討論においても、結婚のさまざまな局面の議論を妨げるものではない。

（床谷文雄・平井晶子）

【前年度　理事会議事録】

【日　時】　2015年11月14日

【会　場】　高野山大学

1．会長挨拶

『現代家族ペディア』（弘文堂）が刊行されたので、販売に力をいれていきたいとの挨拶がなされた。

2．企画委員会報告

平井晶子企画委員から、以下の点について報告がなされた。

1）2015年春季大会「家と共同性」の出版について（9月18日に検討）

編者：加藤彰彦・林研三・戸石七生

出版社：日本経済評論社　編集担当者（梶原千恵）

目次：「はしがき」と「議論」については、加藤彰彦

あとは、プログラムに従い、報告者全員が執筆

分量：1人あたり20000字

出版までの日程：年内　　一次原稿締切

年度内　最終原稿締切

2016年8月　出版

＊なお、このシリーズの3巻までは、平井晶子企画委員が担当する。

2）2015年度秋季大会については、雑誌で特集を組む。

3）2016年春季大会について

テーマ「出会いと結婚」（仮題）

企画担当：床谷文雄・山田昌弘・森本一彦・平井晶子

趣旨：日本で未婚化（晩婚化）が注目されて20年。現在の結婚事情を総括するとともに、比較・歴史的観点からカップル形成の意味を再検討する。とりわけ、だれと、だれが、どのように出会い、結婚に至ったのかを再考する。

報告者

＜現代日本の結婚＞

① 山田昌弘（中央大学/社会学）
　総論（晩婚化・未婚化・国際化など）

② 中村真理子（国立社会保障・人口問題研究所/人口学）
　日本の現状についての人口学的分析

③ 賽漢卓娜（長崎大学/社会学）
　国際結婚の30年　農村花嫁のその後　来日の続いた1980年代以降、現在までの農村花嫁の総括

＜世界の結婚＞

④ 伊達平和（日本学術振興会・京都大学/社会学）
　東アジア、東南アジアを中心とした配偶者選択の定量分析
　ヨーロッパのデータも利用可能であれば、含める

⑤ 大島梨沙（新潟大学/法学、フランス）
　フランスのパートナーシップ（パックス、同性婚）について
　フランスの婚姻法と日本の婚姻法との対比も含めて
　日本の同性婚の状況との対比をいれながら

⑥ 宇田川妙子（国立民族学博物館：文化人類学）
　晩婚・未婚が進むイタリアの結婚の現状

⑦ 渡邉暁子（文教大学/ 文化人類学）
　フィリピンにおけるムスリムの結婚に関する現代的展開
　グローバル化のなかでムスリムとカトリックの結婚など

＜日本の結婚の変容とその実態＞

⑧ 川口洋（帝塚山大学/歴史地理学）
　近世会津地方の農民の通婚圏（近畿地方との対比も含めて）

⑨ 検討中：近世松から明治初期の結婚（法制史の分野から検討する）

⑩ 服部誠（愛知県立旭丘高等学校/民俗学）
　大正期・昭和戦前期を中心に、恋愛に基づいて結婚し、「家」から自由に振る舞えた嫁が、見合いによって結婚し、「家」に縛られるようになってゆく過程と、ハイパーガミーの問題と絡めての議論

4）その後の学会開催の予定について

①以下の点については、決定している。

2016年11月　筑波大学（中野泰）でシンポジウム「琉球の家譜および墓における家の記録」（武井基晃）を開催する。
2017年6月　早稲田大学（小島宏）でシンポジウム「子どもと教育」（小山静子）を開催する。
2018年6月　シンポジウム「人口政策」（小島宏）
②以下の点については、できるだけ早く決定する必要がある。
2017年11月　会場（担当者）とシンポジウムテーマ（担当者）が未定。
2018年6月　会場（担当者）が未定。

3．編集委員会報告
米村千代編集委員から、以下の点について報告がなされた。
1）30号（3月刊行予定）の編集状況について
論文は査読中
書評の依頼は1件のみ調整中で、あとは承諾されている。
出版は弘文堂であることに変わりはないが、編集作業は学会の担当となった。
2）査読ポリシーの作成について
査読過程をどこまで明らかにするのかは、他学会の状況を調べる必要がある。
したがって、春学会までには、査読ポリシーの作成について報告する予定である。

3．ホームページ担当委員報告
大野啓担当委員から、以下の点について報告がなされた。
1）会長あいさつを森先生に変更する。
2）『現代家族ペディア』の宣伝をする。
3）「会員の本」を紹介するので、会員に本の写真・書名・発行社を担当者に伝えることを依頼する。

4．庶務担当委員報告
八木透担当委員から、以下の点について報告がなされた。
1）新入会員の申し込みが5名あり、うち3名は『現代家族ペディア』執筆を機会に加入。
2）退会者の再入会の取扱いについては、まずは「退会」手続の確認をしたうえで、会費納入などの問題について個別に対応する。
3）『現代家族ペディア』の販売促進のため、会員にメールで配信する。割引などについてもメールに添付して知らせる。
4）『現代家族ペディア』は歴代会長と編集委員に贈呈した。執筆者には贈呈せず、かつ特別な著者割引もしない。

【秋季研究大会のご案内】

秋季研究大会を2016年11月19日（土）に筑波大学東京キャンパス文京校舎において開催します。自由報告とミニ・シンポジウム「沖縄の「家」の記録と継承～家譜・墓・仏壇から考える～」を予定しています。大会運営委員会は中野泰先生を中心に組織し、ミニ・シンポジウムは武井基晃先生を中心に企画いただいています。皆様万障繰り合わせの上ご参加ください。